

Ⅲ. モデル事業の結果

1. プロセス評価

①プロセス評価の目的

- ・研修終了後の理解状況を把握するとともに、指導看護師の指導などによりどのように習熟していくかを把握する。

②プロセス評価の流れ

- ・施設内研修終了日に、「終了日」を実施
- ・研修終了日から等間隔（1ヶ月）に、「1ヵ月後」「2ヵ月後」「3ヵ月後」を実施
- ・12月21日に「モデル事業終了後」を実施
（実際には、現場の諸事情（シフトなど）により日程が前後することが想定される）

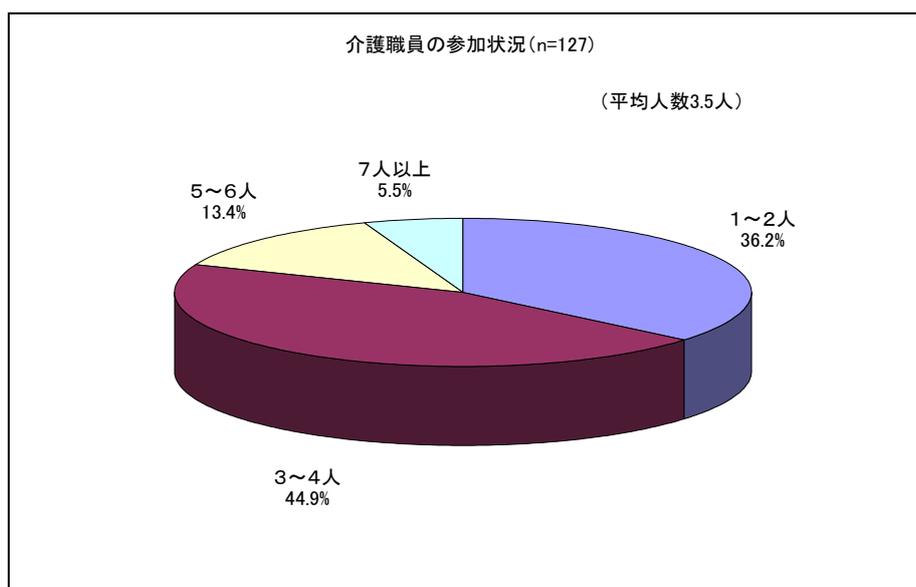
③参加した介護職員の状況

施設内研修に参加した介護職員の状況を整理した。

i. 参加人数

参加した介護職員の1施設当りの平均的な人数は3.5人であり、前述した看護職員の2倍程度となっている。参加した介護職員は「3～4人」という施設が44.9%を占めてもつとも多く、これに次いで「1～2人」参加している施設が36.2%となっている。

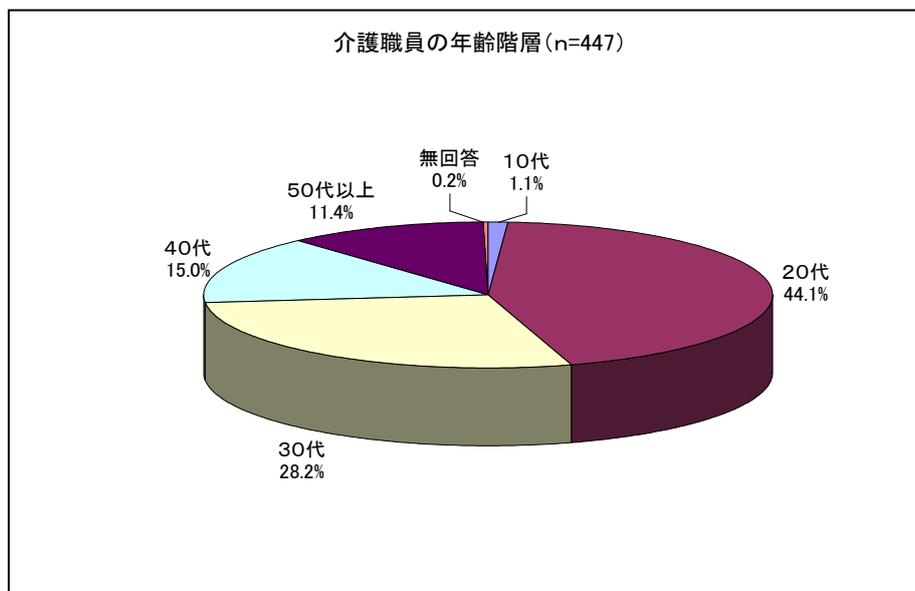
図表22. 介護職員の参加状況



ii. 年齢階層

年齢階層別に見ると、「20代」の介護職員が44.1%を占めてもっとも多く、次いで「30代」が28.2%となっている。前述した看護職員の状況に比べて、やや年齢階層が若くなっている。

図表 2 3. 介護職員の年齢階層

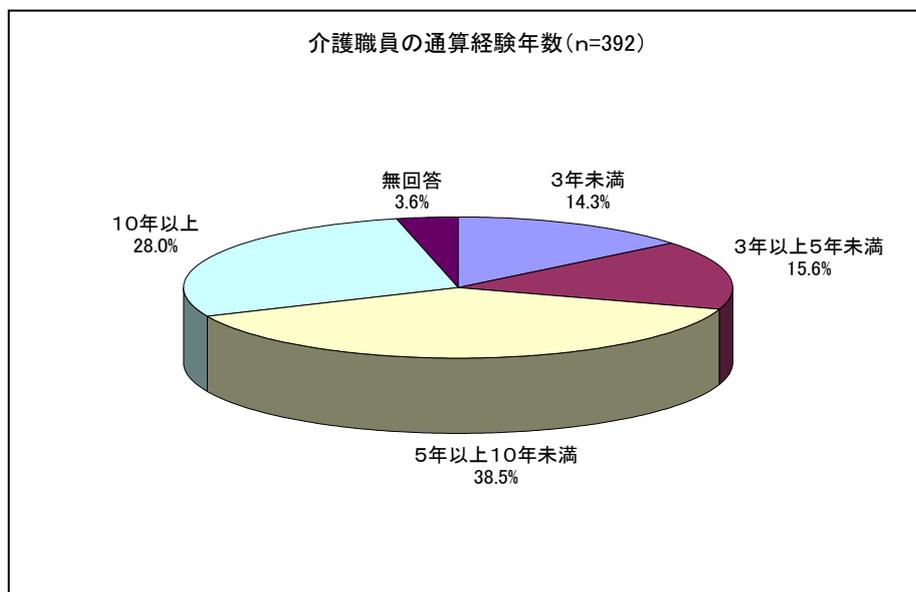


iii. 常勤の通算経験年数

特別養護老人ホームでの常勤の通算経験年数は、「5年以上10年未満」の割合が38.5%ともっとも多く、「10年以上」の28.0%を含めると約3分の2を占めているように、かなり経験を積んだ中堅クラス以上の職員が多数参加している様子である。前述した看護職員に比べて、やや経験の長い職員が参加している。

なお、「無回答」には、「非常勤勤務のみ」の分と「回答がなかった」の分を含んでいる。

図表 2 4. 介護職員の通算経験年数



iv. 資格（複数回答）

参加した介護職員が有する資格は、「介護福祉士」が 87.0%を占めている。

意見交換会での参加者からは、「参加者を介護福祉士に限定した」「リーダークラスの職員を人選した」といった声が聞かれたように、職員の中でも適切と考える人を選定してモデル事業に臨んだようである。

図表 2 5. 介護職員の資格構成比

	人数	構成比
介護福祉士	328 人	87.0%
（その他の資格（介護支援専門員、社会福祉士など）も有する）	(45 人)	(11.9%)
ヘルパー 1 級、2 級、3 級	36 人	9.5%
その他の介護職員（介護支援専門員、社会福祉士など）	13 人	3.4%
合 計	377 人	100%

※四捨五入の関係で、合計が 100%にならない場合があります

④プロセス評価の結果

i. 介護職員による自己評価

研修終了時点では、ほとんどの項目が 2.5 点前後の評価となっているが、その中では「吸引の実施」が 2.35 点と最も低い。

その後、「1ヵ月後」の段階ではすべての項目が 2.7 点以上となり、「2ヵ月後」には口腔内吸引で 13 項目中 5 項目、胃ろうによる経管栄養で 11 項目中 4 項目が 2.9 点に達している。この他の項目もほぼ 2.9 点となっている。

図表 2 6. 介護職員の自己評価（平均点）

介護職員の自己評価平均点

口腔内吸引 (n=360)

研修実施後の達成度(試行中) (点)

	研修実施後の達成度(試行中) (点)			
	研修終了日	1ヵ月後	2ヶ月後	3ヵ月後
対象者の状態に関する情報共有	2.45	2.72	2.84	2.93
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	2.47	2.72	2.84	2.91
必要な物品の準備	2.46	2.76	2.88	2.94
必要な物品の運搬	2.56	2.83	2.93	2.97
対象者への吸引の説明	2.56	2.84	2.92	2.96
吸引の環境の整備	2.49	2.80	2.89	2.95
口腔内の観察	2.50	2.79	2.90	2.94
吸引の実施	2.35	2.69	2.85	2.92
対象者の状態の観察	2.51	2.79	2.89	2.94
ケア責任者(看護職員)への報告	2.60	2.84	2.91	2.95
吸引ピンからの排液の廃棄	2.42	2.75	2.87	2.90
使用物品の速やかな片付け	2.51	2.80	2.90	2.94
施行時刻、施行者名等の記録	2.51	2.73	2.80	2.88

胃ろうによる経管栄養 (n=394)

研修実施後の達成度(試行中) (点)

	研修実施後の達成度(試行中) (点)			
	研修終了日	1ヵ月後	2ヶ月後	3ヵ月後
対象者の状態に関する情報共有	2.45	2.73	2.82	2.90
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	2.45	2.74	2.83	2.90
必要な物品の準備	2.40	2.74	2.86	2.93
必要な物品の運搬	2.53	2.82	2.92	2.96
注入中の状態の定期的な観察	2.49	2.79	2.88	2.94
注入終了後、白湯又は茶の注入	2.40	2.72	2.82	2.91
注入終了後、頭部を挙上した状態の保持	2.63	2.89	2.94	2.97
食後の対象者の状態の観察	2.55	2.83	2.90	2.95
ケア責任者(看護職員)への報告	2.60	2.85	2.91	2.95
使用物品の速やかな片付け	2.49	2.79	2.88	2.94
施行時刻、施行者名等の記録	2.50	2.73	2.82	2.88

3: 独りでできる
2: 支援を受けてできる
1: できない

■ 2.5以上
■ 2.0以上2.5未満
■ 1.5以上2.0未満
■ 1.5未満

※表の中の破線枠は、平均点をもっとも低い項目を示す

口腔内吸引では、2ヵ月後には「独りでできる」割合はいずれも80%以上に達しているものの、依然として13項目中の8項目では「支援を受けてできる」「できない」の合計の割合が10%を上回っている。3ヵ月後に対象数(評価記入数)が大幅に減少しているのは、状態変化などの原因で対象から外れた入所者がいるためである。

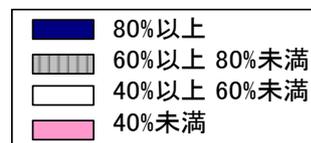
図表27. 介護職員の自己評価(構成比:口腔内吸引)

介護職員の自己評価

口腔内吸引

		研修実施後の達成度(試行中) (%)			
		研修終了日 n=363	1ヵ月後 n=345	2ヵ月後 n=341	3ヵ月後 n=267
対象者の状態に関する情報共有	独りでできる	48.2	71.9	83.6	93.3
	支援を受けてできる	48.8	28.1	16.4	6.7
	できない	3.0	0.0	0.0	0.0
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	独りでできる	49.0	72.2	84.2	91.4
	支援を受けてできる	48.5	27.5	15.8	8.6
	できない	2.5	0.3	0.0	0.0
必要な物品の準備	独りでできる	50.1	76.5	88.9	94.4
	支援を受けてできる	45.7	23.2	10.9	5.2
	できない	4.1	0.3	0.3	0.4
必要な物品の運搬	独りでできる	60.1	83.5	93.3	96.6
	支援を受けてできる	36.6	16.5	6.7	3.4
	できない	3.3	0.0	0.0	0.0
対象者への吸引の説明	独りでできる	60.6	84.9	92.4	96.6
	支援を受けてできる	35.5	14.8	7.3	3.0
	できない	3.9	0.3	0.3	0.4
吸引の環境の整備	独りでできる	52.9	80.5	90.3	95.1
	支援を受けてできる	43.5	19.2	8.8	4.5
	できない	3.6	0.3	0.9	0.4
口腔内の観察	独りでできる	53.7	80.0	89.7	94.0
	支援を受けてできる	43.3	19.7	10.3	6.0
	できない	3.0	0.3	0.0	0.0
吸引の実施	独りでできる	43.3	69.7	85.2	92.0
	支援を受けてできる	49.2	30.0	14.5	8.0
	できない	7.5	0.3	0.3	0.0
対象者の状態の観察	独りでできる	54.0	79.7	89.1	94.4
	支援を受けてできる	43.3	20.0	10.6	5.6
	できない	2.8	0.3	0.3	0.0
ケア責任者(看護職員)への報告	独りでできる	63.1	84.3	92.1	95.9
	支援を受けてできる	34.7	15.4	7.3	3.7
	できない	2.2	0.3	0.6	0.4
吸引ピンからの排液の廃棄	独りでできる	50.7	76.6	87.9	90.9
	支援を受けてできる	41.6	22.2	11.2	8.7
	できない	7.8	1.2	0.9	0.4
使用物品の速やかな片付け	独りでできる	56.7	80.6	90.3	94.0
	支援を受けてできる	38.0	18.8	9.1	6.0
	できない	5.2	0.6	0.6	0.0
施行時刻、施行者名等の記録	独りでできる	60.9	77.9	84.2	90.2
	支援を受けてできる	29.6	17.1	11.6	8.3
	できない	9.5	5.0	4.2	1.5

※表の中の破線枠は、合計の割合が10%を超える項目を示す



胃ろうによる経管栄養でも2ヵ月後には「独りでできる」割合は全項目で80%以上に達しているものの、依然として11項目中の7項目では「支援を受けてできる」「できない」の合計の割合が10%を上回っている。3ヵ月後に対象数（評価記入数）が大幅に減少しているのは、状態変化などの原因で対象から外れた入所者がいるためである。

図表28. 介護職員の自己評価（構成比：胃ろうによる経管栄養）

胃ろうによる経管栄養		研修実施後の達成度（試行中）（％）			
		研修終了日 n=391	1ヵ月後 n=386	2ヵ月後 n=387	3ヵ月後 n=304
対象者の状態に関する情報共有	独りでできる	48.9	73.9	83.3	90.1
	支援を受けてできる	47.1	24.8	15.9	9.9
	できない	4.0	1.3	0.8	0.0
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	独りでできる	48.9	74.9	83.8	90.4
	支援を受けてできる	47.6	23.8	15.4	9.6
	できない	3.5	1.3	0.8	0.0
必要な物品の準備	独りでできる	48.4	76.2	87.6	93.0
	支援を受けてできる	43.4	21.5	11.1	6.7
	できない	8.3	2.3	1.3	0.3
必要な物品の運搬	独りでできる	59.6	84.3	92.7	96.5
	支援を受けてできる	34.1	13.7	6.6	3.5
	できない	6.3	2.0	0.8	0.0
注入中の状態の定期的な観察	独りでできる	54.6	80.5	89.4	93.6
	支援を受けてできる	39.8	17.7	9.6	6.4
	できない	5.5	1.8	1.0	0.0
注入終了後、白湯又は茶の注入	独りでできる	50.5	77.0	85.5	92.3
	支援を受けてできる	39.6	18.1	10.9	6.1
	できない	9.8	4.8	3.6	1.6
注入終了後、頭部を挙上した状態の保持	独りでできる	66.7	90.1	95.5	97.4
	支援を受けてできる	29.6	8.6	3.3	2.6
	できない	3.8	1.3	1.3	0.0
食後の対象者の状態の観察	独りでできる	58.4	83.0	90.9	95.2
	支援を受けてできる	38.3	16.2	8.3	4.8
	できない	3.3	0.8	0.8	0.0
ケア責任者（看護職員）への報告	独りでできる	64.2	86.6	92.4	95.5
	支援を受けてできる	31.8	12.4	6.3	4.2
	できない	4.0	1.0	1.3	0.3
使用物品の速やかな片付け	独りでできる	56.1	81.8	89.6	93.6
	支援を受けてできる	37.1	16.2	9.1	6.4
	できない	6.8	2.0	1.3	0.0
施行時刻、施行者名等の記録	独りでできる	60.9	79.7	86.8	90.9
	支援を受けてできる	29.0	14.3	8.5	6.8
	できない	10.0	6.0	4.7	2.3

※表の中の破線枠は、合計の割合が10%を超える項目を示す

ii. 指導看護師による介護職員の他者評価

評価の傾向は自己評価と非常に類似している。研修終了時点では、ほとんどの項目が2.5点前後の評価となっているが、その中では「吸引の実施」が2.33点と最も低い。

その後、「1ヵ月後」の段階ではすべての項目が2.7点以上となり、「2ヵ月後」には口腔内吸引で13項目中9項目、胃ろうによる経管栄養で11項目5項目が2.9点以上に達しているように、自己評価に比べて達成度をやや高く評価している。

図表2.9. 指導看護師(看護職員)の他者評価 (平均点)

指導看護師(看護職員)の他者評価平均点

口腔内吸引 (n=360)	研修実施後の達成度(試行中) (点)			
	研修終了日	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後
対象者の状態に関する情報共有	2.42	2.71	2.89	2.97
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	2.45	2.74	2.91	2.96
必要な物品の準備	2.42	2.75	2.93	2.98
必要な物品の運搬	2.55	2.83	2.96	2.99
対象者への吸引の説明	2.51	2.81	2.95	2.98
吸引の環境の整備	2.44	2.77	2.91	2.97
口腔内の観察	2.46	2.82	2.92	2.96
吸引の実施	2.33	2.72	2.89	2.93
対象者の状態の観察	2.47	2.81	2.91	2.95
ケア責任者(看護職員)への報告	2.60	2.85	2.93	2.97
吸引ピンからの排液の廃棄	2.41	2.71	2.87	2.95
使用物品の速やかな片付け	2.49	2.79	2.93	2.97
施行時刻、施行者名等の記録	2.50	2.77	2.85	2.93

胃ろうによる経管栄養 (n=394)	研修実施後の達成度(試行中) (点)			
	研修終了日	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後
対象者の状態に関する情報共有	2.46	2.70	2.89	2.97
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	2.46	2.72	2.88	2.97
必要な物品の準備	2.42	2.77	2.89	2.97
必要な物品の運搬	2.57	2.84	2.93	2.98
注入中の状態の定期的な観察	2.44	2.77	2.88	2.96
注入終了後、白湯又は茶の注入	2.43	2.77	2.88	2.94
注入終了後、頭部を挙上した状態の保持	2.68	2.91	2.96	2.98
食後の対象者の状態の観察	2.52	2.85	2.93	2.95
ケア責任者(看護職員)への報告	2.61	2.87	2.96	2.99
使用物品の速やかな片付け	2.48	2.81	2.91	2.98
施行時刻、施行者名等の記録	2.52	2.77	2.87	2.93

3: 独りでできる
2: 支援を受けてできる
1: できない

■	2.5以上
■	2.0以上2.5未満
■	1.5以上2.0未満
■	1.5未満

数値の解説

- ・3点に近いほど、「独りでできる」という回答が多かった部分を表わしています。3点に近いほど習熟度が上がっていると判断することができます。
- ・2点に近いのは、「支援を受けてできる」という回答が多かったり、「独りでできる」と「できない」の両方が同じくらい多くなった部分です。
- ・1点に近いほど、「できない」という回答が多かった部分を表わしています。

※表の中の破線枠は、平均点が最も低い項目を示す

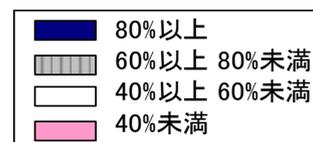
口腔内吸引では、2ヵ月後には「独りでできる」割合は概ね90%前後となっているものの、依然として13項目中の4項目では「支援を受けてできる」「できない」の合計の割合が10%を上回っている。3ヵ月後に対象数（評価記入数）が大幅に減少しているのは、状態変化などの原因で対象から外れた入所者がいるためである。

図表30. 指導看護師(看護職員)の他者評価（構成比：口腔内吸引）

指導看護師(看護職員)の他者評価

口腔内吸引		研修実施後の達成度（試行中）（％）			
		研修終了日 n=361	1ヵ月後 n=344	2ヵ月後 n=339	3ヵ月後 n=262
対象者の状態に関する情報共有	独りでできる	45.7	71.7	88.9	96.6
	支援を受けてできる	50.4	27.2	10.9	3.4
	できない	3.9	1.2	0.3	0.0
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	独りでできる	47.9	74.6	90.6	96.2
	支援を受けてできる	49.0	24.6	9.1	3.8
	できない	3.0	0.9	0.3	0.0
必要な物品の準備	独りでできる	48.5	76.0	93.0	97.7
	支援を受けてできる	44.9	23.4	7.0	2.3
	できない	6.6	0.6	0.0	0.0
必要な物品の運搬	独りでできる	60.2	84.1	96.4	99.2
	支援を受けてできる	35.0	15.3	3.6	0.8
	できない	4.8	0.6	0.0	0.0
対象者への吸引の説明	独りでできる	55.6	81.8	94.7	98.1
	支援を受けてできる	40.2	17.6	5.3	1.9
	できない	4.1	0.6	0.0	0.0
吸引の環境の整備	独りでできる	49.6	77.7	91.5	97.3
	支援を受けてできる	45.7	21.7	8.5	2.7
	できない	4.7	0.6	0.0	0.0
口腔内の観察	独りでできる	49.3	81.8	91.8	95.8
	支援を受けてできる	47.4	17.9	8.2	4.2
	できない	3.3	0.3	0.0	0.0
吸引の実施	独りでできる	40.8	73.4	89.3	92.3
	支援を受けてできる	51.1	25.7	10.4	7.7
	できない	8.1	0.9	0.3	0.0
対象者の状態の観察	独りでできる	51.5	81.8	90.9	95.1
	支援を受けてできる	44.4	17.6	9.1	4.9
	できない	4.1	0.6	0.0	0.0
ケア責任者(看護職員)への報告	独りでできる	63.4	85.8	93.0	96.6
	支援を受けてできる	33.6	13.6	7.0	3.4
	できない	3.0	0.6	0.0	0.0
吸引ピンからの排液の廃棄	独りでできる	52.1	74.6	88.5	95.0
	支援を受けてできる	37.4	22.4	10.0	4.6
	できない	10.5	2.9	1.5	0.4
使用物品の速やかな片付け	独りでできる	55.4	80.3	94.4	97.3
	支援を受けてできる	39.4	18.2	4.7	2.7
	できない	5.2	1.4	0.9	0.0
施行時刻、施行者名等の記録	独りでできる	56.5	80.2	87.6	93.9
	支援を受けてできる	37.4	17.2	10.0	5.0
	できない	6.1	2.6	2.4	1.1

※表の中の破線枠は、合計の割合が10%を超える項目を示す



胃ろうによる経管栄養でも2ヵ月後には「独りでできる」割合は概ね90%前後に達しているものの、依然として11項目中の6項目では「支援を受けてできる」「できない」の合計の割合が10%を上回っている。3ヵ月後に対象数（評価記入数）が大幅に減少しているのは、状態変化などの原因で対象から外れた入所者がいるためである。

図表31. 指導看護師(看護職員)の他者評価（構成比：胃ろうによる経管栄養）

胃ろうによる経管栄養		研修実施後の達成度(試行中) (%)			
		研修終了日 n=361	1ヵ月後 n=344	2ヶ月後 n=339	3ヵ月後 n=262
対象者の状態に関する情報共有	独りでできる	48.9	71.3	89.4	96.8
	支援を受けてできる	47.9	27.4	10.6	3.2
	できない	3.3	1.3	0.0	0.0
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	独りでできる	49.1	73.1	88.6	97.4
	支援を受けてできる	48.1	25.4	11.4	2.6
	できない	2.8	1.5	0.0	0.0
必要な物品の準備	独りでできる	49.9	79.2	89.9	97.4
	支援を受けてできる	42.4	18.5	9.9	2.6
	できない	7.8	2.3	0.3	0.0
必要な物品の運搬	独りでできる	62.7	86.5	93.4	98.1
	支援を受けてできる	31.8	11.4	6.3	1.9
	できない	5.5	2.0	0.3	0.0
注入中の状態の定期的な観察	独りでできる	49.4	78.7	88.1	96.1
	支援を受けてできる	46.4	20.1	11.9	3.9
	できない	4.3	1.3	0.0	0.0
注入終了後、白湯又は茶の注入	独りでできる	53.4	81.1	89.8	95.8
	支援を受けてできる	36.8	14.5	8.9	2.9
	できない	9.8	4.3	1.3	1.3
注入終了後、頭部を挙上した状態の保持	独りでできる	70.4	91.9	96.2	98.1
	支援を受けてできる	26.8	7.4	3.8	1.9
	できない	2.8	0.8	0.0	0.0
食後の対象者の状態の観察	独りでできる	55.1	85.3	92.4	95.2
	支援を受けてできる	41.6	14.0	7.6	4.8
	できない	3.3	0.8	0.0	0.0
ケア責任者(看護職員)への報告	独りでできる	64.2	88.1	95.7	98.7
	支援を受けてできる	33.1	10.7	4.3	1.3
	できない	2.8	1.3	0.0	0.0
使用物品の速やかな片付け	独りでできる	55.6	82.5	91.1	98.1
	支援を受けてできる	37.8	16.0	8.9	1.9
	できない	6.5	1.5	0.0	0.0
施行時刻、施行者名等の記録	独りでできる	59.1	81.3	88.1	94.1
	支援を受けてできる	34.5	14.8	10.6	4.6
	できない	6.4	3.9	1.3	1.3

※表の中の破線枠は、合計の割合が10%を超える項目を示す

iii. 介護職員の自己評価／他者評価の比較

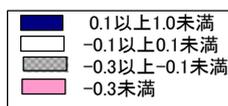
介護職員の自己評価と指導看護師の他者評価を比較すると、ほとんど差は見られない。

図表 3 2. 介護職員の自己評価／他社評価の比較

介護職員の自己評価／他者評価の比較

口腔内吸引	研修実施後の達成度(試行中) (点)			
	研修終了日	1ヵ月後	2ヶ月後	3ヵ月後
対象者の状態に関する情報共有	0.0	0.0	0.0	0.0
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	0.0	0.0	-0.1	0.0
必要な物品の準備	0.0	0.0	-0.1	0.0
必要な物品の運搬	0.0	0.0	0.0	0.0
対象者への吸引の説明	0.0	0.0	0.0	0.0
吸引の環境の整備	0.1	0.0	0.0	0.0
口腔内の観察	0.0	0.0	0.0	0.0
吸引の実施	0.0	0.0	-0.1	0.0
対象者の状態の観察	0.0	0.0	0.0	0.0
ケア責任者(看護職員)への報告	0.0	0.0	0.0	0.0
吸引ピンからの排液の廃棄	0.0	0.0	0.0	0.0
使用物品の速やかな片付け	0.0	0.0	0.0	0.0
施行時刻、施行者名等の記録	0.0	0.0	0.0	0.0

胃ろうによる経管栄養	研修実施後の達成度(試行中) (点)			
	研修終了日	1ヵ月後	2ヶ月後	3ヵ月後
対象者の状態に関する情報共有	0.0	0.0	-0.1	-0.1
対象者の状態の報告・連絡・相談等の連携	0.0	0.0	0.0	-0.1
必要な物品の準備	0.0	0.0	0.0	0.0
必要な物品の運搬	0.0	0.0	0.0	0.0
注入中の状態の定期的な観察	0.0	0.0	0.0	0.0
注入終了後、白湯又は茶の注入	0.0	0.0	-0.1	0.0
注入終了後、頭部を挙上した状態の保持	-0.1	0.0	0.0	0.0
食後の対象者の状態の観察	0.0	0.0	0.0	0.0
ケア責任者(看護職員)への報告	0.0	0.0	0.0	0.0
使用物品の速やかな片付け	0.0	0.0	0.0	0.0
施行時刻、施行者名等の記録	0.0	0.0	0.0	0.0



数値の解説
 ・0点に近いほど、自己評価(介護職員自身の評価)と他者評価(指導看護師の評価)に違いが少ないことを表わしています。自己と他者の評価が似通っている状態です。
 ・マイナスが大きいのは他者評価の得点が高く、プラスが大きいのは自己評価の得点が高いことを表わしています。自己と他者の評価がばらついている状態です。

なお、モデル事業に参加した介護職員の中に、ケアの試行が3ヶ月経過した時点で、全体に比べて習熟度の向上の速度が遅い職員が12名いることが分かった。プロセス評価の結果は自己評価と他者評価が概ね同じである。ただし、モデル事業の中では実際に行ったケアの回数などは把握していない。

この12名をさらに分析したところでは7施設に限定されていて、資格や経験年数、年齢との関係性はないことがわかった。その施設での評価基準がやや厳しくなっていることがあるのではないかと考えられる。なお、この12名の職員とヒヤリハットの関係性を見たが、ヒヤリハット(観察不十分、確認漏れ)と関係した職員は1名であった。